

第3回八代海域モニタリング委員会議事要旨

【1】開催日時 平成16年 8月 4日(水) 13:30~15:30

【2】開催場所 KKR熊本1F 有明・不知火の間)

【3】出席委員(敬称略)

委員長 弘田禮一郎 熊本大学名誉教授

委員

(学識経験者)

大本 照憲 熊本大学工学部助教授

門脇 秀策 鹿児島大学水産学部教授

楠田 哲也 九州大学大学院工学研究院教授

篠原 亮太 熊本県立大学環境共生学部教授(欠席)

滝川 清 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授

堤 裕昭 熊本県立大学環境共生学部教授

逸見 泰久 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター助教授

(敬称略 50 音順)

(漁業者代表)

松本 忠明 熊本県漁業協同組合連合会代表理事会長
(代理)太田 一登 海苔技術指導課長

宮本 勝 熊本県漁業協同組合連合会第三部会長(欠席)

赤山 力 熊本県漁業協同組合連合会第四部会長(欠席)

桑原 千知 熊本県漁業協同組合連合会第五部会長

杉田 金義 八代漁業協同組合代表理事組合長

沖崎 義明 熊本県漁業協同組合連合会第六部会長

赤寄 辰雄 鹿児島県東町漁業協同組合代表理事組合長
(代理)山下 伸吾 営漁指導課長

(敬称略順不同)

(行政関係者)

和田 雅人	環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室室長補佐
山崎 久雄	環境省九州地区環境対策調査官事務所長
杉山 昌穂	水産庁九州漁業調整事務所振興課長
塚原 健一	国土交通省九州地方整備局河川部河川調査官 (代理)栗尾 和宏 建設専門官
尾坐 巧	国土交通省九州地方整備局港湾空港部海域環境・海岸課 長 (代理)尾田 忠 環境企画係長
久保 一昭	海上保安庁第十管区海上保安本部海洋情報部海洋調査課 長
島津 好男	気象庁長崎海洋气象台業務課長(欠席)
東出 成記	国土交通省八代河川国道事務所長
朝掘 泰明	国土交通省川辺川ダム砂防事務所長
西原 孝美	国土交通省熊本港湾・空港整備事務所長
西村 健一	熊本県環境生活部環境保全課長
河野 靖	熊本県地域振興部川辺川ダム総合対策課長
渡邊 俊二	熊本県土木部首席土木審議員(兼河川課長) (代理)永吉 豊志 土木審議員
吉田 好一郎	熊本県林務水産部水産振興課長 (代理)神戸 和生 課長補佐
堤 泰博	熊本県水産研究センター所長
中内 孝雄	鹿児島県環境生活部環境管理課長 (代理)右田 譲 技術補佐
前田 一巳	鹿児島県林務水産部水産振興課長(欠席)
古賀 吾一	鹿児島県水産技術開発センター長 (代理)吉田 賢二 漁業環境部長

(敬称略順不同)

(オブザーバー)

平山 隆夫	熊本県企業局工務課長(代理)久保田義信 企業審議員
杉平 二郎	電源開発(株)水力流通事業部西日本支店長代理

(敬称略順不同)

【4】配付資料

議事次第

- 資料—1 出席者一覧
- 資料—2 配席表
- 資料—3 第2回モニタリング委員会議事要旨
- 資料—4 八代海域モニタリング調査について(定期調査、特定課題調査)
- 資料—5 熊本県における環境保全対策
- 資料—6 鹿児島県における環境保全対策

【5】議事次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第2回モニタリング委員会での指摘事項について(水質監視、赤潮監視)

 - (2) モニタリング実施状況について
 - ①平成15年度の実施結果及び平成16年度の実施状況
 - ②特定課題調査について(中間報告)

 - (3) 今後の取り組みについて
 - ①赤潮対策、環境保全対策(熊本県、鹿児島県)

【6】議事要旨

1. 開会
2. 挨拶
八代河川国道事務所長 <省略>
3. 議事
 - (1)第2回モニタリング委員会での指摘事項について(水質監視、赤潮監視)

 - (2)モニタリング実施状況について
 - ①平成15年度の実施結果及び平成16年度の実施状況
 - ②特定課題調査について(中間報告)

(議論の結果)

- ・調査は水質の悪い箇所を調査していくべきで、今後調査地点の追加が必要。
- ・調査マニュアルを調整するのではなく、サンプルの取り方等を取りまとめ評価することが必要。
- ・覆砂試験は目的を明確にし、それに沿ったまとめ方調査方法を検討することが必要。

(議論の要旨)

(事務局にて(1)～(2)を一括して説明) <省略>

- ・2003年度河川水質調査で、すべての地点で環境基準を満たしていることはあり得ない。
- ・水質の悪いところをさがして、その対処を考えるのが(モニタリング委員会の)主旨では？
- ・河川の水質は公共用水域の測定地点での評価している。
- ・その他の地点で行えば悪いところもあると思われるが、データ収集・整理はしていない。
- ・水質の悪い箇所の調査は、特定課題調査で地点を探して調査していったらどうか。
- ・時期・項目を合わせたり調査船で調査するなど少しずつ調査は改善している。調査地点の追加等関係機関と協議していく。
- ・分析方法等のマニュアルの統一は出来ないか。マニュアルを調整するのではなくサンプルの取り方等をマニュアル化し評価すべき。
- ・分析方法等については関係機関へのアンケート等により整理している。今後、関係機関と精度のよいデータをあげるよう調整する。
- ・覆砂調査はなぜ行ったのか。土砂の動きがメインか、それとも生物か？
- ・干潟の保全や復元のため基礎調査である。土砂の動きがメインであるが、底生生物についても追跡調査を実施している。
- ・土砂の動きは、河川からの土砂収支も含めてみる必要があるのでは？
- ・(河川からの)土砂収支も含めて今後の課題として考えている。今後アドバイスをお願いしたい。
- ・覆砂、地下水調査等目的に沿ったまとめ方になっているのか。委員会として方向性を議論しながら整理すべき。
- ・委員会の方向性としては環境省の評価委員会に八代海のデータを提供していく。
- ・評価委員会との連携をはかりながら進めていきたい。ご指導をお願いしたい。
- ・荒瀬ダムの砂だけでなく有明海の砂を使って覆砂し比較してみないとわからないのではないか？
- ・覆砂の比較については、先生方に伺っているところ。今後、整理する。
- ・2003年の三角沖から松合、八代地域ののり養殖は、赤潮により年明けの生産は

ほぼゼロ。

- ・アサリは有明海では採れてるが不知火海では少ない。荒瀬ダムから砂を持ってくる技術を確認してほしい。
- ・ステーションの場所をはっきり書くべき。でなければ、その水域全体が悪いイメージを持つ。
- ・単年度でなく経年の流れを見てトレンドを知ることによって対策を打つことが出来る。
- ・底質と底生生物調査箇所の整合性がとれていないので分析ができず、結果との関連性がつけられない。
- ・調査箇所関係機関と調整し、分析が出来るよう整理していきたい。

(3) 今後の取り組みについて

(議論の結果)

- ・窒素とリンのどちらが過剰に入ることにより赤潮が発生するのかを調べてエサの改良を行わなくては、効果が分からない。
- ・意識調査を含めた運動を進めており、住民の方々へのアンケートなどの進め方については、今後検討していく。

(議論の要旨)

(熊本県(水産、環境)、鹿児島県が説明) <省略>

- ・有明海では窒素が過剰に入ったときに赤潮が起こっている。(八代海では) 窒素とリンのどちらが過剰に入ることにより赤潮が発生するのかを調べてエサの改良を行わなくては、効果が分からない。
- ・生エサではなくなったので餌の無駄など少しは減ったといえる。
- ・浄化槽の整備事業は、窒素・リンの負荷を減らすのに役に立っていないのでは？このことは、以前にもお願いしている。
- ・以前のBODのみを除去する小型合併施設浄化槽だけでなく、脱窒装置付の浄化槽を普及していきたいと考えている。
- ・熊本県の「川と海づくり」とはどういう主旨か。海をつくることは出来るのか。
- ・きれいな川や海を守り育てていくという思いの中での言葉。説明できる良いうったえ方があれば教えてほしい。
- ・川や海がゴミ捨て場になっているかどうかについて意識調査を実施し、事業を進めた方が成果があるのではないか。
- ・意識調査を含めた運動を進めており、住民の方々へのアンケートなどの進め方については、今後検討していく。

(その他)

次回委員会については、2月頃を目安に調整のうえ開催案内する。

今回の議事要旨については、委員長が確認したうえでホームページに掲載する。

以上